

## 第2回 2019年5月14日(火)

第2回一流塾では、講師に丹羽宇一郎氏（(公社)日本中国友好協会会長、元伊藤忠商事(株)会長、元中国大使）と、第1期0B生でもある神野吾郎氏（(株)サーラコーポレーション代表取締役社長、豊橋商工会議所会頭）を、懇親会の特別ゲストには熊坂隆光氏（(株)産業経済新聞社代表取締役会長）をお迎えしました。また、懇親会には一流塾特別顧問の福川伸次氏（(一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学総長、元通商産業事務次官）と一流塾顧問の渡邊五郎氏（元三井物産(株)副社長）にもご出席頂きました。

第1部では、『激変する世界情勢と日本のこれから』と題して丹羽氏が講義を行いました。講義の冒頭、「人間はどのように成長するのか。」という命題について、三つの要素として①仕事②読書③人は人で磨かれるとお示しくださいました。仕事についてはトップリーダーの要件として、撤退の勇氣と、弱い人の味方に立って行動する勇氣が大切と話されました。読書ノートを作ることで自分をもっと成長したいと思ったときにそのノートを読み返すことができる。そして自分の周りを全て先生だと思って日々過ごしていくことが、人として成長していくことにつながると塾生に向けてアドバイスをくださいました。中盤では、世界の経済指標の推移などの具体的な数字を用いる世界の中の日本の立ち位置を示すとともに中国の経済成長や科学分野での発展などを例に、日本の技術者、科学者の減少について、日本の若者は留学離れを防ぐためにも留学後にメリットを与えるなど対策をしなければならぬとの危機感を示されました。最後にご自身が伊藤忠商事の社長時代の決断に至るまでの苦悩や、思いを率直に語っていただきました。『絶対に勝つ』という情熱のもとやり抜くために必要なのは社員の信頼であると述べられました。塾生からは、「思ったことを強い心でやり遂げることの大切さ。社員の信頼が会社の強さである。というところに感銘を受けた」「真実を知る厳格な意見にホンモノを感じた」といった感想が寄せられました。



【講師 丹羽氏】

第2部では、『地方の企業経営において大切なこと』と題して神野氏が講義を行いました。講義の前半で、神野氏は三代にわたる自社の地域開発の歴史に触れ、ご自身が銀行マンからサーラグループに戻られてからの経営の見直しや、時代の変化による多角化展開や、事業変革のお話をいただきました。後半では事業環境が大きく変化している中で、地域の様々なステークホルダーとエコシステムを創造し、地域の価値を高めていくための数々のプロジェクトの事例をご紹介され、10年20年の仕事を考えた時に何をしていたら良いのかを常に考えながら行動していくことが大切だと述べられました。そして最後に「小さな夢を持つな、大きな夢を持って」との言葉とともに、これからのビジネスにおいても実行しながら発見し、どんな場面でもベストを尽くしていくことが大事と塾生にアドバイスをおくられました。



【講師 神野氏】

「地域の発展に貢献されている事業内容に魅力を感じた。」「関わったことにベストを尽くすという信条が今の結果であるとの言葉に、自分もそうありたいと感じた」といった声があがりました。

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに福川氏による乾杯の後、特別ゲストの熊坂氏から『メディアの舞台裏』と題して卓話を頂きました。メディアの使う常套句をユーモラスにご紹介頂きながらも、メディアが果たす使命やブランドと責任の重要性を述べられました。さらに全国各紙の販売部数推移や成人一人当たりの発行部数等をみながら、新聞社のデジタル戦略等をわかりやすく解説していただきました。また卓話後には、当日誕生日を迎えられた渡邊氏に、一柳塾長から花束が贈られるサプライズもあり、会場は和やかな雰囲気にもまれ、そのまま各テーブルでは講師陣と塾生との活発な意見交換が続きました。懇親会後には、塾生有志による塾長を囲む放談会が開催され、スペシャルゲストとして女性官僚の方にお越し頂き、女性塾生に向けて女性ならではの仕事との向き合い方などをお話しくださり、男女問わず塾生も熱心に聞き入り、有意義な時間となりました。



【特別ゲスト 熊坂氏】



【懇親会風景】



【放談会風景】